

## 第43回中川村リニア中央新幹線対策協議会 会議録



期 日 令和7年12月16日(火) 午後7時00分～8時00分

場 所 中川村基幹集落センター 集会室

### 出席者

- ・対策協議会委員 15人 (19人中欠席者4人)
- ・J R 東 海 12人 (うちJV3人)
- ・長 野 県 6人 (伊那建設事務所2人、飯田建設事務所4人) ※以下「伊那建」「飯田建」
- ・村 関 係 者 5人
- ・マ ス コ ミ 3社

---

## 1 開会

事務局

皆様こんばんは。それでは、時間になりましたのでこれより第43回中川村リニア中央新幹線対策協議会を始めさせていただきますと思います。進行の方は、事務局が務めさせていただきますのでお願いします。

それでは、会長挨拶をよろしくお願いたします。

## 2 あいさつ

会長

はい。皆様こんばんは。協議会に先立ちまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

今年も残るところ2週間ほどというところまでできました。対策委員の皆様には今申し上げましたとおり、地区総代の皆様が非常に多くいらっしゃいますので、ちょうど年末の役職の切替え時期でありますし、職務としてまとめをしなければいけない、とそういう立場の皆様が多いわけでございます。なにかとお忙しい中、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。お礼を申し上げます。

さて、当協議会がありますけれども、小和田地区への発生土運搬、駒ヶ根市の新宮川岸で行われております農村交流施設の造成、ほ場整備再造成のための発生土運搬に関する運搬県道の改良、それから砂防指定地であります半の沢の埋め立て並びに、渡場交差点など通過箇所の騒音ですとか、大気質などの環境測定と監視などについて、当事者でありますJR東海さん及び道路管理者の長野県飯田建設事務所、伊那建設事務所の皆さんから事業の進捗<sup>しんちよく</sup>状況、それから要望を受けまして改良状況等をご報告をいただき、協議会としてですね安全でできるだけ静かな普段と変わりのないような環境の中で事業が進んでいくよう協議を皆様で行って進めていくと、こういうものでございます。今日、報告をいただきます三者の皆様には、分かりやすくかつ丁寧に説明をしていただきますよう、改めてお願いを申し上げます。

また、前回の協議会で質問、要望等が出されております。JR東海それから長野県建設事務所に持ち帰り検討をいただいた事項にも、ぜひ言及をしていただくようお願いをいたします。

関係地区の総代の皆様におかれましては、年末の地区総会場で報告すべき事項もあろうかと思っておりますので、年内に結論が出せる課題については今日の協議を行った上で、一定の対処、方向が確認できればよろしいのではないかなというふうに考えております。

結びでありますけれども、今回の会議がですね、後々の問題が少しでも安全な車両運行ですとか、沿線住民の良好な居住環境の維持に繋がりますことを関係各位にお願いをしまして、協議会冒頭のご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局

それでは、協議事項については会長の進行でよろしくお願いいたします。

### 3 協議事項

会長

はい。それでは、早速協議に入りたいと思います。お手元に次第が行っているかと思っておりますけれども、最初に、JR東海さんから工事関係についての報告をお願いいたします。

JR東海

皆様こんばんは。本日は、お忙しいところこの対策協議会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。また、皆様におかれましては日頃から中央新幹線の建設事業にご理解とご協力をいただき、心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。

2025年もあとわずかとなりまして、この1年間長野県内のリニアの工事の進捗といいますと、豊丘村で隣り合う工区の本坑のトンネルが貫通したり、あるいは喬木村の竜東一貫道をまたぐ高架橋が姿を見せるといった、大きな節目となるような工事の進捗が見られたというところがございますが、一方で沿線の皆様からすると、もっと工事を早く進めないかというような思いもあるのかなというふうに思ってます。我々としては、着実に工事を進められたと言えるという状況がこの1年だったかなというふうに考えております。

一方で、工事を身近に感じつつ生活されている地元の皆様にとっては、引き続きご不便をおかけする状況が続くというところで、ご

迷惑をおかけし続けるという点ではもちろん申し訳ないというところでございますが、この中央新幹線の建設事業、飯田を中心とするこの地域だけでなく日本全体にとっても、明るい未来に繋がる事業でありますので、ぜひとも引き続きこの事業の推進にご理解とご協力を賜ればというふうに考えております。本日も大鹿村内の工事状況を中心に、丁寧な説明を心がけます。どうぞよろしくお願い致します。

J R 東海

皆様、改めましてこんばんは。私の方から J R 東海工事関係についてご説明いたします。着座にて失礼いたします。

お手元の資料のうち、A 4 ホチキス留めの、上に第 43 回中川村リニア対策協議会と書かれた資料と A 3 の資料、左上ホチキス留めをしております渡場交差点における環境測定の結果、及び A 3、1 枚ものの工事カレンダー、こちらの方の内容についてご説明します。

A 4 ホチキス留めの資料をご覧ください。上下 2 ページとなっております。右下にページ番号を振っております。2 ページ目です。本日のご説明内容ですが、大鹿村内の中央新幹線工事の進捗状況。また、工事用車両通行台数の実績・予定、環境測定の結果、その他、大きく 4 点についてご説明をいたします。

3 ページ目になります。まず、大鹿村内南アルプストンネル長野工区の工事状況についてご説明します。南アルプストンネル長野工区では、除山非常口から先進坑及び本坑を掘削しており、また小渋川の非常口からも本坑を掘削しております。現在、掘削している位置が、おおむね赤い矢印の位置でお示しをしております。右下、工事の進捗として掘削済みの延長になりますが、先進坑等が 8.3 キロのうちの約 4.9 キロ、本坑が 8.4 キロのうちの約 2.8 キロが掘削済みという進捗状況でございます。

次に、下の 4 ページ目になります。伊那山地トンネル青木川工区の工事状況です。伊那山地トンネル青木川工区では、引き続き青木川非常口から本坑を掘削しております。おおむね赤い矢印の位置で掘削をしております。右下、工事の進捗として掘削済みの延長で

すが、本坑 3.6 キロのうち約 1.6 キロが掘削済みという状況でございます。

5 ページ目、トンネル工事の状況としてただいまご説明をいたしました大鹿村内の 4 か所のトンネル工事のトンネル先端、切羽付近の写真をお示ししておりますのでご確認をお願いいたします。

次に、下の 6 ページ目です。小渋川橋梁<sup>きょうりょう</sup>工事の状況についてご説明します。小渋川橋梁付近につきましては、10 月 1 日に工事用トンネルが貫通し、11 月 24 日から橋梁の準備工事に着手しております。この工事用トンネルでございますが、1 ページ前の 3 ページ目、南アルプストンネル長野工区の工事状況の平面図をご確認いただきますと、本坑に並行した先進坑の左側、西側の方に工事用トンネル 0.3 キロがございまして、先進坑から分岐をしたこの工事用トンネルが小渋川のたもとの斜面に貫通したという状況です。今後は、小渋川非常口から非常口トンネル、工事用トンネルを通りまして、小渋川橋梁の工事を行っていくという計画でございます。

6 ページ目に戻りまして、現在ですが、現地では工事用トンネル坑口部の成形、平場の整備を行っております。来年の春以降、工事用仮栈橋の工事に着手する予定でございます。左側、上空から見た航空写真になりますが、左側に県道赤石岳公園線、右側に小渋川が流れておりまして、赤く示した場所に工事用トンネルの坑口部が少し顔を出しているといった状況です。こちらの断面図が右側のとおりとなりまして、県道赤石岳公園線から平面距離で約 220 メートル、さらに高低差 150 メートル下方の場所に工事用トンネルが位置しているといったような位置関係でございます。

7 ページ目になります。大鹿村内の発生土仮置き場の状況についてご説明します。大鹿村内の発生土仮置き場 B 三正坊では土砂の搬出を適宜行っております。また、仮置き場 E 小渋川変電所予定地につきましては、土砂の搬出入を行っております。

次に、8 ページ目以降が工事用車両通行台数についてのご説明となります。まず、8 ページ目が資機材運搬車両に関わる直近 3 か月の通行台数の実績でございます。表の右側、渡場交差点におきまし

では、9月から12月にかけておおむね30台程度の通行実績でございました。

9ページ目、発生土運搬車両に関わる通行台数の実績でございます。表の一番右側、渡場交差点におきましては、9月から12月にかけて430台から510台ほどの通行実績でございました。

次に下の10ページ目、工事用車両運行経路における安全対策についてご説明します。見通しの確保を目的として、主要地方道松川インター大鹿線の半の沢橋付近及び一般県道北林飯島線の北林橋付近におきまして立木の伐採作業を行いました。引き続き、一般交通の安全確保を第一として自治体、道路管理者と連携をしながら安全第一で工事を実施してまいります。

11ページ目になります。工事用車両通行台数の予定といたしまして、渡場交差点におきます直近3か月の予定についてご説明します。1月から3月にかけては、月別日平均480台、日最大で560台を予定しておりまして、工事用車両の内訳は表のとおりでございますので確認をお願いします。

次に、下の12ページ目になります。こちらでは、2026年度末にかけての工事用車両の運行計画についてご説明をします。表の上、渡場交差点における2026年度末にかけての予定でございます。月別日平均として、資機材運搬は引き続き往復で50台。発生土運搬につきましては、1月から3月が430台、4月から6月が600台、7月から12月にかけては670台、再来年の1月から3月にかけては600台。合計では、表のとおりを予定をしております。

また、下の表は発生土運搬先をお示ししております。まず、一番上の大鹿村内の中央新幹線小渋川変電所の敷地造成への発生土運搬につきましては、来年夏以降予定をしております。また、同じく大鹿村内の<sup>とびがすさわ</sup>鳶ヶ巣沢環境対策事業への発生土運搬は、引き続き継続してまいります。また、駒ヶ根市中沢の新宮川岸地区土地改良事業につきましては、3月で発生土運搬を完了する予定でございます。また、中川村の小和田地区基盤整備事業及び松川町の前河原道路新設事業への発生土の運搬につきましては、引き続き実施をしております。

また、中川村半の沢道路改築事業につきましては、1月から6月まで、及び11月頃からまた運搬を継続してまいりまして、7月から11月頃にかけては、一時運搬を中断する予定でございます。この理由といたしましては、現在あります半の沢橋の撤去工事に伴いまして、一時的に発生土の運搬搬入ができないためでございます。投影された画面を見ていただきますと、こちら現在の半の沢の状況でございます。大鹿村側から松川町側を眺めておりまして、右側に半の沢橋が見えておりますが、今後この半の沢橋から上流側の沢の上方に向かって盛土を行いまして、この半の沢橋を迂回<sup>うかい</sup>するための迂回路を整備してまいります。それが、おおむね6月頃に完了予定でございまして、7月以降、半の沢橋の撤去工事を行っていくという予定でございます。

お手元の資料に戻っていただきまして、一番下になります。飯田市内の中央新幹線長野県駅新設工事への発生土運搬、こちらが5月から6月を予定しております。こちらは、前回までにご説明をしておりました大鹿村内で発生した要対策土を中央新幹線の工事に活用するための運搬でございまして、3回に分けて運搬するうちの1回目が今年の7月頃に完了しておりまして、2回目の運搬を来年5月から6月頃に予定している状況でございます。

表の上に戻りまして、渡場交差点における運行台数になりますが、先ほどご説明しました中川村半の沢の半の沢橋撤去に伴う発生土運搬が一時的に実施できないことに伴いまして、渡場交差点におきましては、7月から11月頃にかけて台数が一時変化をしてまいります。しかしながら、こちらの台数につきましては昨年の夏から秋ごろにかけても、一時的に半の沢への発生土運搬を行わずに、大鹿村から出てきたダンプが全て渡場交差点を通行していた頃の台数と同程度になる見込みでございます。以上が、次年度末にかけての工事用車両の運行計画になります。

13 ページ目以降が、環境測定の結果についてのご説明となります。渡場交差点におきましては、2018年11月から大気質・騒音振動の常時測定を行っておりまして、直近3か月の結果が14 ページ目から次の16 ページ目にかけての内容となります。また、A3の

方で大きな資料もご用意しておりますので、見やすい方でご確認をいただければと存じます。まず 14 ページ目、二酸化窒素・浮遊粒子状物質についての調査結果となります。こちらの結果につきましては、3 か月間の平均値がそれぞれ令和元年に実施をしております 3 か月間の平均値、右上に記載しております二酸化窒素 0.004 ピーピーエム、浮遊粒子状物質 1 立方メートル当たり 0.01 ミリグラムと同値という結果でございました。

次に 15 ページ目、昼間の騒音振動の測定結果となります。こちらの結果につきましても、3 か月間平均が右上に記載の騒音 63 デシベル、振動 26 デシベルとほぼ同値という結果でございました。

また、下の 16 ページ目が夜間の騒音振動の測定結果となりますのでご確認をお願いいたします。

その他といたしまして、工事カレンダーについてご説明をいたします。A 3 の資料 1 枚ものの工事カレンダーをご確認をお願いいたします。工事カレンダーになりますが、来年 1 年間においての大鹿村内での工事及び発生土運搬の実施日、運休日等をお示しをしております。本年にかけましては、発生土運搬は 12 月 26 日の金曜日で終了いたしまして、年明けは 1 月 6 日火曜日から再開する予定でございます。来年一年間にかけては、本年と同様、引き続き土曜日は全休というかたちで工事の方を実施してまいります。なお、左下に記載のとおり、1 月から 3 月及び 12 月の土曜日につきましては、平日の天候、具体的には雪などで発生土の運搬ができない日等が発生した場合には、土曜日に運搬する可能性がございます。

以上、J R 東海からの説明になります。ありがとうございます。

会長

はい。J R 東海さんの説明が終わりました。それでは、この関係で順番については結構でございますので、ご質問それからご意見等ございましたら挙手をしてください。マイクをお持ちいたします。それでは、ご質問等を承りますのでよろしくお願いをいたします。

委員

2 点質問なんですけども、一つは半の沢の残土の運搬は今の時点で何割ぐらい終了しているかと、来年 7 月から渡場交差点に出てく

る台数が増えるっていうことなんですけども、これの行き先どちら方面に行くのが増えるのか、分かる範囲で教えていただきたいと思っています。

会長 関連したものも合わせて、ほかでも構いませんが先にありましたら。委員さんお願いします。

委員 すみません。運搬車両のことなんですけど、赤のステッカーで中央新幹線のステッカーがあると思うんですが、このダンプが高森方面から国道153号を通過して村の方を通過していると思うんですが、この発生土運搬車両の項目には入っていないようなので、国道153号を通過している赤いステッカーの運搬車両はどこからどこへ行っているのか教えていただきたいのと、それと9ページにある通行台数実績のところ、できれば田島交差点も入れていただけないかなと思うんですけども、中川村は渡場交差点だけなんで、ほかのところから通過してくるやつが田島交差点通って北の方向かっているんで、どこの会社なのか、何をしている車なのかよく分からないのでそれも教えていただきたいと思っています。

会長 運行に関しましてはよろしいですか、皆様。それでは、半の沢の盛土を完了している割合、それから来年の渡場交差点からどちら方面に進むのかということ、それから飯田の方かと思えますけれども赤いステッカーのダンプが国道153号通過の台数と田島交差点付近の方向と予定の台数分かりましたら、お願いをしたいと思います。

J R 東海 はい。一つ目の半の沢の土量に関しましては、飯田建設事務所さんからお答えいただいてもよろしいでしょうか。

会長 飯田建さん、お願いをいたします。

飯田建 こんにちは。飯田建設事務所です。よろしくお願ひいたします。

では、今ご質問いただいた1点目、半の沢の盛土がどのぐらい進んでいるかという点については、私どもの方から回答させていただきたいと思います。後ほど、飯田建設事務所の事業状況の中でご説明をしたいと考えておりましたが、今盛土作業といたしましては、盛土工事全体で約53万立方メートルの計画ですが、11月20日時点の仕上げ量といたしましては、約30万8000立方メートル、盛土全体の進捗率といたしましては約58パーセントとなっております。進捗につきましては以上です。

会長

はい、ありがとうございました。それでは車両運搬の台数、方面についてお願いをいたします。

J R 東海

まず、来年夏以降、半の沢に搬入が一時的にできない期間にどちらの方面が増える見込みかという点でございます。12ページ目の表を見ていただきまして、当該期間中になります。渡場交差点を通行する主な運搬先といたしましては、中川村の小和田地区基盤整備事業及び松川町の前河原道路新設事業となります。このうち、松川町の前河原道路新設事業につきましては、工事の進捗として中川村小和田よりも運搬するスペースが比較的小さい置き場となりますので、当該期間中につきましては、主に渡場交差点から竜東線を北上するルートの方が台数の割合としては大きくなっていく見込みでございます。具体的な台数につきましては、今後の協議会の中でまた直近3か月の予定等でご説明をさせていただければと存じます。

次に、赤いステッカーの車両が高森方面から国道を通行しているという件でございます。こちらにつきましては、赤色のステッカーではなくて、まずオレンジ色のステッカーでございまして、飯田市内の中央新幹線のトンネル工事の現場から出た発生土を小和田地区基盤整備事業に運搬を行っている車両でございます。こちらにつきましては、前々回、今年の7月の協議会でご説明をさせていただきました飯田市内から小和田への発生土運搬の車両となります。この車両の通行でございますが、今年の9月から運行開始しております。来年春ごろにかけての予定でございまして、通行台数といたし

ましては、1日片道で50台から100台程度現在通行している状況でございます。中川村内につきましては、国道153号を往復で通行するルートで運搬を行っております。

また、ご意見にありました田島交差点における工事用車両の通行台数の実績を示して欲しいというご意見につきましては、来年春頃にかけての運搬となりますが、次回及びその次の回の協議会の資料の方、更新をするように対応させていただきますのでよろしくお願いいたします。以上です。

会長

はい。ご質問いただいた皆様、よろしいですか。それからですね、オレンジのステッカーの国道153号通過については、7月の協議会の場で、飯田の方から運びますという説明をさせていただいて、おおむね了解をいただいたということでございます。したがって、田島交差点の通行台数は飯田工区との協議が必要かと思えますので、予定の台数で結構ですから、また3月以降お示ししていただくようにJR東海さんにはお願いをしたいと思います。

その関連でほかにありますでしょうか。関連の運行台数とかでありますけれども、よろしいですか。それではほかにですね、環境測定等でございますけれども、これについてご質問等ある方はありましたらお願いをしたいと思います。

委員

もう多分、私から質問出ただろうと思われてると思いますけど、14ページの二酸化窒素の9月10日頃から17日頃にかけて突出しているところがあるんですが、この理由は何か考えておられますか。

J R 東海

調査結果ですとか現地の状況等確認をしましたが、明確な原因は不明といったような結果でございました。以上です。

委員

バックグラウンドの大体倍以上の濃度になってるので、しかも風速は2メートルか3メートルぐらいのところなのでちょっと考えにくいんですけども、浮遊粒子状物質も下がってるし、このときに何

か大鹿村の方でイベントがあったとかそういうことでもないでしょうし、1日だけだったら何となくあれなんだけど、なんか連続してるので、この期間だけ。運行台数にこのときに偏りがあったとかそういうことはなかったんですか。

会長 原因は何か分かりますか。

J R 東海 改めて実績を確認します。

会長 もういっぺんですね帰っていただいて、台数をもういっぺん調べていただいて、それでなければほかの原因かなというふうに思いますので。

何か分かりますか。よろしいですか。

J R 東海 すぐに確認ができますので、後ほど回答させていただきます。

会長 はい。よろしく願いいたします。ほかにいかがでしょうか。それでは、後でまた気がついたところがありましたら全体でお受けをしたいと思います。J R 東海さんありがとうございました。

続いて、県道工事関係の報告と質疑に移ります。最初に、主要地方道松川インター大鹿線改良事業等について飯田建設事務所さんお願いをいたします。

飯田建 改めまして、皆様こんばんは。日頃から、長野県の建設行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。改めまして、私飯田建設事務所から飯田建建設事務所の工事につきましてご説明したいと思います。着座にて失礼いたします。

松川インター大鹿線の改良工事の状況につきまして、ご説明いたします。本日は、資料の2-1と2-2をお配りしております。まずは資料の2-1、A3版の方をご覧ください。個別事業の箇所の進捗状況につきまして、順を追ってご説明いたします。

まず、①番道路改良事業の葛島でございます。葛島につきましては、関係機関と協議をしつつ、今年度は測量設計を実施しておるところでございます。②の道路改良事業の二軒屋につきましては、今年、松川町側の道路拡幅工事に着手いたしました。後ほど、資料2-2をご覧ください。ご説明したいと思います。

③道路改良事業の半の沢でございます。先ほど、ご質問をいただきましたが、リニア中央新幹線建設に伴う発生土を活用し半の沢の道路を改良する事業でございます。資料の下段に、11月末に撮影した写真の③を掲載しております。先ほどもご説明しましたが、現在盛土作業を進めておりました、今全体で53万立方メートルの計画のところ、約30万8000立方メートル、盛土全体の進捗率といたしましては約58パーセントとなっております。

また、先ほどJR東海さんからもご説明ありましたが、現在、現橋のたもとのところまで盛土の高さが上がってきておりますので、これから現橋を撤去するための迂回路整備を予定しております、それは前回ご説明したとおり11月から工事を始めておるところでございます。

④の四徳大橋西につきましては、なるべく現在の交通への影響が少なく、早期に効果が発揮できる局所的な拡幅というものに取り組んでおりました、詳細設計を行ったところでございます。現在は、支障物件の移設を行っております。⑤の落合トンネル工事につきましては本体掘削、これは約888メートルでございますが、プロテクターのある大鹿トンネルとの交差点まで到達いたしました。現在は、新設トンネル内の覆工コンクリートや排水施設の施工を行っております。引き続き、工事車両の運転マナーの改善には取り組んでまいりたいと考えております。その他の工事といたしましては、今年度の橋梁補修こいけどう橋を予定しておるところです。

続きまして、資料の2-2、A4版の横になりますがそちらをご覧ください。今年、松川町側の道路拡幅工事に着手したところですが、現在は道路下の斜面部において、地山の補強工事を施工中でございます。今、通行していただくと道下でやっているものですから、少し分かりにくいのですがA4の資料2-2の写真①をご覧ください。

なっただきますと、ガードレールの下の方、拡幅するための擁壁をだんだん地山補強の工事を積み上げてきているところになります。今後、これが上がってきますと一部工種の施工にあたりまして、通行規制等でご迷惑をおかけすることになるかと思いますが、<sup>なにとぞ</sup>何卒ご理解とご協力をお願いしたいと思います。

以上で、飯田建設事務所発注工事についてのご説明を終わります。

会長

はい、ありがとうございました。大分半の沢が進んでいるようがありますし、二軒屋のところ大分難工事のようにも見受けましたが、進んでいるということでございます。この件について、皆様でご質問等ありましたらお出しをいただきたいと思いますが、マイクをお持ちしますのでお待ちください。

委員

はい。1点お聞きしたいんですけども二軒屋の大鹿側のところですね。平面図で青く塗ってあるところ、坂なんですけど、大梨1号橋2号橋がありますけども、この沢に渡る側か、小渋川の方に現在暫定盛土をしてある直線のところがございまして、それを県道に振り替えるっていうお話は国交省とは進んでおりますでしょうか。そこら辺の確認です。目処<sup>めど</sup>としては、いつ頃使えるかっていうところ教えてください。

飯田建

それではすみません。私の方からご回答させていただきたいと思います。今、お問い合わせのあった二軒屋の大鹿側につきましては、現在関係機関、天竜川ダム統合管理事務所さんとか天竜川上流河川事務所さんと協議を続けておるところでございます。なかなかやはり盛土の安定性という部分で、クリアしなければいけない問題も多くてですね、皆様にご説明できる段階にまだ進んでおりません。

県道にできるのか、事業として取り組むことができるのかということも含めて、今協議を重ねておるところでございます。大変申し訳ないんですが、目処がなかなか示せない状況でございます。た



伊那建

皆様こんばんは。伊那建設事務所です。着座にて説明させていただきます。資料3のA3の資料を説明させていただきます。

まず、①ですけれども坂戸橋の重量制限についてですね、前回委員さんからありましたけれども、この橋は令和2年に国の重要文化財に指定されておりました、土木遺産としても大変重要な橋であることを認識してございます。重要文化財である坂戸橋の保存のあり方について、坂戸橋保存会や中川村などの関係する皆様と協議を進めてまいりたいと考えております。

続いて、②のですね伊那生田飯田線の南向発電所から柏原集会所間の雑木の伐採の関係でございます。委員からご意見いただきまして、こちらの道路西側のガードレールからテールアルメの直壁とその法面の雑木について、業者<sup>のりめん</sup>に依頼してございまして、この年末から年明け1月中旬にかけて伐採作業を実施する予定としております。今後につきましてですけれども、雑木の繁茂状況等確認する中で、緊急度や優先度を判断して必要に応じて検討してまいりたいと考えております。

三つ目としまして、今の区間と併せてになりますけれども渡場交差点からですね北側になりますかね、柏原集会所まで清掃範囲を拡大してほしいというご要望ですけれども、こちらについては現地確認したところ、この間で路肩に堆積した土砂がある部分も確認したことから、先ほどの伐採作業と併せてですね、こちらの方の路肩の堆積土砂については撤去する予定でございます。

今後についてはですね、道路パトロール等により路面状況を適宜把握しまして適切に対応するとともに、リニアの残土運搬に起因して路面清掃が必要と判断される場合は、伊那建設事務所管内の管理道路の安全確保に関する確認書に基づいて、J R東海さんと協議させていただきまして路面清掃の依頼をするなど、対応を行ってまいりたいと考えております。私の方からは以上になります。

会長

はい、ありがとうございました。以上でございます。北林飯島線と伊那生田飯田線等につきまして、ご質問ある方はお願いをしたいと思います。よろしいでしょうか。一応、竹はJ R東海さんの方

で、私も通行しておりますけども綺麗に切っておりますので、ということであろうかと思えます。委員さん方何かよろしいですか。

委員

すみません。県道伊那生田飯田線なんですけど、今ダンプ通過してもらって北林の方へおりていくんですけど、まだ舗装がそんなに傷んでるわけじゃないんですけど、だんだんとでこぼこっていか、ちょうど左折するので、どうしてもこすりつけてわだちっていか、そういう状況になってきているんで、寒い時期はまだいいんですけど、夏場になるにつれてそういうのが激しくなってくるんで、路面状況を確認しながら補修の方お願いします。

あと、JRさんのダンプばかりじゃなくて国交省なんかも大分走ってるもんですから、秋にかけてそういうのも啓発というか注意喚起をしてもらった方がいいと思うんですけど、いかがなものでしょうか。以上です。

会長

道路補修の件なんですけど、これJR東海さんかな、どうなんでしょう。交差点付近ですけどね。

JR東海

はい。ご意見ありがとうございます。伊那生田飯田線から北林の方におりていくところの左折するルートだと認識しております。そちらの傷み具合に関しましては、現地を確認して、道路管理者と相談しながら必要に応じて補修の対応をしたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

会長

はい、ありがとうございます。一度、路盤からきっちりやり直してもらったので、少し重さがかかって少し沈んでるかなと思うんですけども、それほど前よりはいろんな砂利とかアスファルトが飛び散るとかそういう状況は今のところないので、道路管理者と協議をしていただいてぜひ進めていただければと思えます。

それから、村の方から説明をお願いいたします。

事務局

リニア対策室です。先ほどの、委員の方から伊那生田飯田線北林飯島線を通る車両への注意喚起ということで、来年の1月22日に、小渋砂利安全運搬対策連絡協議会という、小渋線等利用される団体の協議会の安全大会がありまして、その場ですね、渡場交差点の土砂がこぼれてしまうような話も含めて、車両の通行に対して速度もそうですけれども、運搬のルール、運行のルールをしっかりと守っていただくようにということで、一昨年度あたりからですね、村の方から直接、実際に参加されている皆さんの前でこういう事例があります、地元からこういう意見がありますので注意をお願いしますということで、注意喚起をさせていただいております。

来年もそのようにさせていただいて、小渋砂利の協議会に関しましては、幹事会等々年間何回かありますのでその都度、村の方から注意喚起をお願いしているという状況になりますので、引き続きさせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

会長

はい、ありがとうございます。全体を通してですね、総代さん方にとってみると交代される方もいらっしゃるかと思いますので、どうしてもここでお願いをしたい、協議の対象にしたいということがありましたら発言をお願いをできればと思いますけれどもいいですか。委員さんお願いします。何でも構いませんので。

委員

はい。一応確認なんですけれども、これから冬になってきて本雪が降ってくると思うんですけども、数年前に坂戸付近において、リニアのダンプが立ち往生したってことで、その後も一応運行計画しておるんですけども、もう一度確認っていう意味でお聞きしたいので、よろしくお願いいいたします。

会長

はい。それでは、JR東海さんの方から、対策をしっかりと練っていただいておりますので回答をお願いします。

J R 東海

おっしゃるとおり2023年の2月に上雪が降りまして、当社の発生土運搬で出て行ったダンプが、戻れなくなったりスタックして立

ち往生したといったような事象がございました。それを受けまして、2023年7月、第33回協議会でご報告をしておりますが、上伊那又は下伊那地域で大雪警報が発表された場合には、発生土運搬は運休いたします。具体的には、ダンプが発車する8時よりも前に大雪警報が出ていた場合には完全に運休をし、8時以降に大雪警報が出た場合は、直ちにダンプを止めるとともに、既に出てしまったダンプは個々連絡を取りながら安全なかたちで待避できるように対応するというので、運行計画の体制を再度見直しまして現在実践しているところでございます。以上です。

会長

はい、ありがとうございます。今年もちよっと寒いし、何があるか分かりませんので、ぜひそういうことをしっかり対応いただければというふうに思います。

全体を通じて、委員の皆様から何かありましたらお出しをいただきたいと思います。なければ、協議は終了したいと思います。

J R 東海さん、お願いします。

J R 東海

先ほど確認依頼がありました J R 東海の資料 14 ページ目の渡場交差点における環境測定の結果、14 ページ目の二酸化窒素のうち、9月8日から19日頃の値が高かった時期に工事用車両の台数が実際どうだったかという点について、確認をいたしました。

9月8日の週、月曜日から金曜日の累計の台数実績としては往復で合計3,000台でした。また、9月15日の週は2,300台という実績でございました。その他、以降の1週間の実績を確認したところ、9月22日の週は2,500台。9月29日の週は2,400台と、9月の中ではこの9月8日の1週間が比較的台数が多かったという実績でございました。

10月にかけても実績を確認したところ、10月13日の週は2,800台、20日の週も2,800台。10月27日の週は2,900台と、10月の中旬下旬も比較的台数が多かったのに対して、あまりグラフに差がなかったといったような傾向もありますので、一概に工事用車両の偏りによってここまで二酸化窒素の値が一時的に大きくなったとい

うことは、明確には傾向は分からないというような結果でございました。以上です。

会長

今分かっている台数はこうだったということでございますけれども、また帰っていただいてですね、分からなければしょうがないんですけど、ほかに少し何かあるかお考えいただいて、また次に報告いただければ結構ですからぜひよろしくお願ひいたします。

それでは、特にないようでありますので以上で協議を閉じたいと思います。総代の委員さん方は変わられる方もあろうかと思ひますけれども、1年間大変ありがとうございました。ここでまずお礼を申し上げたいと思ひます。

それでは、事務局の方へ返しますのでよろしくどうぞ。

#### 4 その他

事務局

ありがとうございました。それでは、次第に基づきまして4のその他ですが、何かある方はいらっしゃいますでしょうか。事務局の方は特にないです。

伊那建

伊那建設事務所です。関連して報告になりますけれども、国道153号牧ヶ原トンネルですけれども、先週ですね12日に区画線の引き直しを行っておりまして、高輝度の区画線ということで反射しやすい、見やすいかたちで対応させていただきました。事後報告になってしまって申し訳なかったんですけど、一応対応していることをご報告させていただきます。

事務局

ありがとうございました。ほかに何かありますでしょうか。よろしいですか。はい、ありがとうございました。それでは最後に、閉会の挨拶を副会長お願ひします

#### 5 閉会

副会長

こんばんは。1日のお仕事のお疲れの中、長時間にわたり協議いただき大変ご苦労さまでした。以上をもちまして協議会を閉じます。大変ご苦労さまでした、ありがとうございました。